

## 春の子ども向けワークショップ（せつこっこクラブ 4月・5月）事業報告

### ●せつこっこクラブ 4月

「ちぎって貼って！テープで絵を描こう」（担当：岩瀬）

開催日：2026年4月26日（日） 全2回

①午前10時～11時30分 ②午後1時30分～3時

定員：各回10名（抽選）

対象：3歳～中学生（小学3年生以下は保護者同伴）

参加者数：①子ども7名、大人8名 合計15名

②子ども6名、大人5名 合計11名

のべ26名

参加費：1人500円

（大人が途中のガイドツアーに参加する場合は観覧料320円が必要）

---

このワークショップでは、2025年度のこどもミュージアムにて開催したマスクングテープを使った貼り絵を再度行った。

最初に美術館の鑑賞マナーについて学んだ後にコレクション展（常設展）「彼女たちの肖像」を鑑賞した。学芸員から本コレクション展で注目した作品と子どもにもわかりやすい作品として三岸節子《自画像》1925年《鳥と琴を弾く埴輪》1957年《貝谷八百子氏肖像画》1957年《さいたさいたさくらがさいた》1998年、桜井浜江《赤樹》1982年、5点の作品についての解説を行った。一方的な解説にならないよう『《自画像》はなぜ鏡をみて描いたと考えられているのか』『埴輪を知っているか』など問いかけを行うことで、子どもの好奇心や鑑賞意欲を引き出した。解説後、アイデアメモに気に入った作品や色について記録しつつ見学を行った。



解説を聞く様子

次に、実習展示室にて制作を行った。前回はA4サイズの再利用展示パネルを台紙としたが、貼る面積が大きく時間を要したため、今回はA5サイズにした。鑑賞して気に入った作品をアートカードから選び制作した子どもが多かった。制作すると子どもの手先ではテープをちぎることは難しく、その点は大人の協力が必要だった。ちぎって貼るという行為が手で行う直感的な行為であるため、子どもにとって受け入れやすく集中して取り組んでいる印象だった。時間内で完成しない子どもには自宅で完成できるようにテープを必要分持ち帰ってもらった。せつこっこクラブ5月にも参加した子どもの中には、帰宅してから完成できたとの報告ももらった。



制作の様子

制作中の感想やアンケートから、「家では用意が難しい大量のテープを使った制作が面白い。」「作品鑑賞は大人も楽しめてよかった。」など高評価であった。

●せつこっこクラブ 5月

「大切な人にプレゼント！合わせ絵で花を描こう」（担当：岩瀬）

開催日：2026年5月6日（水・休） 全2回

①午前10時～11時30分 ②午後1時30分～3時

定員：各回10名（抽選）

対象：3歳～中学生（小学3年生以下は保護者同伴）

参加者数：①子ども9名、大人9名 合計18名

②子ども3名、大人3名 合計6名

のべ24名

参加費：1人500円

（大人が途中のガイドツアーに参加する場合は観覧料320円が必要）

このワークショップでは花の作品を三岸節子が多く描いていることから、合わせ絵の技法を用いて花の絵を制作した。

せつこっこクラブ4月同様に美術館の鑑賞マナーについて学んだ後にコレクション展（常設展）「彼女たちの肖像」を鑑賞した。花の絵を制作するということで、予め子どもたちには花の絵を探すことを伝え、展示室を左右半分ずつで区切り、花の絵を鑑賞しながら『どんな花か』『何色か』『何に入っているか』『背景は何が描かれているか』等を問いかけ、答えてもらった。問いかけを行うことによって三岸節子がどのような花の絵を描いているのかを理解してもらうのが狙いであった。飽きてしまう子どももいたが、積極的に答える子どもやメモをする子どもが多かった。「背景」という言葉は聞いたことのない子どもが多く、理解してもらうのが難しかった。花瓶や壺は実際に土蔵展示室で鑑賞した。



解説を聞く様子

次に、実習展示室に戻り、制作に入った。アートカードから花や花瓶が描かれた作品を用意し、参考にしてもらった。《さいたさいたさくらがさいた》が人気があった。午前は初めから作品を作ることを想定し、説明を加えながらある程度子どもたちの足並みを揃えて制作した。だが先述した「背景」や制作工程の伝達がうまくいかず、完成のイメージがなかなか出来ず、時間を要した。そのため、午後の回では最初に花を合わせ絵で描く技法のみを体験してもらい、作品の制作に入ってもらった。どちらの回も一度手を動かしてみると、子どもたちなりに試行錯誤して制作に集中できるが、普段あまり使用しない絵の具と合わせ絵という技法であったため、制作が難しい印象であった。



制作の様子

制作中の感想やアンケートからは、「合わせ絵という方法が知れて良かった。」「絵の具が使えて楽しかった。」「絵の具と水の量の調整が難しかったがよい経験となった。」など技法としては難しいが制作は楽しかったとの意見であった。

今回のワークショップは4月・5月と連続して参加する子どもが5組もいた。普段はできない制作をやってみたいという意見が多く、家でできない制作体験として需要があると感じた。

描くものを自由に選択し制作する形式をとったが、決定するのに時間のかかってしまう子どもがいた。三岸節子の特定の作品を全員で描くなど描くものを絞ると、時間内に完成が目指しやすいと感じた。特にせつこっこのクラブ5月では《さいたさいたさくらがさいた》において合わせ絵の技法が上手く活かされた印象であり、技法によっても描くものを限定する面白さを感じた。

実習展示室は展示室として普段使用しているため、照明が暗く今後は事前に調整をしたい。また、会議机など備品や材料が職員の想定しているより子どもにとっては使いづらい等の使用物品の改善の必要性も挙げられた。

子ども向けのワークショップはリピーターも多く、職員としても子どもの成長が感じられるイベントである。美術館や三岸節子、美術について親しむきっかけとして今後も子ども向けの活動を継続していきたい。